

【対訳】おにぎりなど和食③に欠かせない②海藻であるノリの2022年度①生産量が、日本最大の産地である有明海での天候不順や⑤赤潮の大量発生④が原因で51年ぶりの低水準になった。

産地の価格が前年の収穫期から46%高騰したことを受け、日本の主なノリ加工メーカーは今月から家庭用ノリの⑥希望小売価格を⑦最大で40%引き上げる。この身近な食材の大幅な値上げは消費者⑧に重い負担をかけることになりそうだ。

全国漁連のり事業推進協議会のデータ⑨によると、22年11月から今年5月15日までの22年度のノリ収穫期の日本での生産枚数は約48億枚で、51年ぶりに50億枚を下回った。この数字は日本国内のノリの需要75億枚に約27億枚足りない。

各地の漁業協同組合の共同販売価格の全国平均は1枚(横19cm・縦21cm) 17.24円で前年度比46%上昇した。1枚当たりの価格は40年ぶりに17円を超えた。

ノリの生産が減少したのは、日本のノリ生産の60%を占める九州地方の⑩収穫量の不振のせいだ。



Quick Lesson

「切り取る」も意味する crop

下線⑩で「収穫量」と訳したcropは「生産高」「作柄」などの意味のほか、「穀物を中心とした農産物」自体も表します。「群れ」「グループ」という意味もあり、辞書には「次々と出るウソ」を示す表現として「a crop of lies」が載っていました。

cropは動詞にもなり、「(花や作物を) 収穫する」「(畑などを) 耕作する」のほかに「(写真の不要な部分を) 切り取る」も意味します。似た単語にtrimがあり、名詞形のtrimmingは写真の一部を切り取る作業を指す「トリミング」で日本語になっています。画像編集では一般的にtrimでは切り取るだけで画像サイズが変わらないのに対し、cropは切り取った部分を元のサイズなどに拡大することを意味するようです。一方、理容やファッション関係では、cropは「短髪」を示し、丈の短いトップスを“crop top”、すそ丈が短めのパンツを“cropped pants”といいます。

米国で中国人や中国企業による土地買収を制限する動きが相次いでいることを報じたNikkei Asiaの記事の見出しは“Bans on Chinese land purchases in U.S. crop up in Republican-held states”でした。“crop up”は2つの単語が1つの動詞として使われる句動詞で「不意に／突然現れる」を意味します。見出しを訳すと「中国による米国の土地購入の禁止措置、共和党支配の州で相次ぐ」といったところです。(編集委員 木村恭子)

英文媒体「Nikkei Asia」の記事をもとに構成。全文はウェブで読めます。ラジオNIKKEIの「実践! Let's Read the Nikkei in English」(水曜午後11:30～、最終週は木曜午前0:00～、再放送:木曜午前7:25～、動画配信サービス「Paravi」)で発音を確認できます。

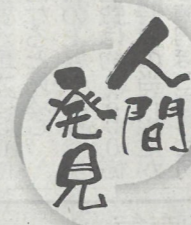
要だ」と話す。ムゲームでは、利を支持し促すの権利が損なれない。LGB残る。LGB援するピナクリュー・ステ現代でも家族ず、孤独を深Qの若者がい。同財団は家れない若者のしている。LGBTIQ ストラリアに蔵の性的少数に比べ自殺を5倍高い。18スジェンター自認する性がでは11倍以上TQの若者の殺を試みた。調査結果もあ

医師 小笠原 文雄さん

人生を一変させる診療を体験しました。大腸がんから腸閉塞になり、病院で緊急手術を受けた2年後に在宅医療を受け始めた男性患者、丹羽さんがいました。いつものように午前8時過ぎに訪問診療を終えて帰ろうとすると、奥さんに呼び止められました。「男の人って最期まで格好つけるんですね」と言われたのです。聞いてみると、丹羽さんは前日に「明日、旅に出るから、いつものかばんと靴を用意して」と話したというのです。奥さんが「私も連れてって」と言いつつ、彼は「遠いところ

最期は笑って

1989年岐阜市に小笠原内科を開業した。多くの患者さんが来ました。しかし、目の病気もある。で、診る患者さんはある程度に抑えようと院外処方に変わったところ、翌年、医薬分業の報酬が手厚くなり、収入が増えてしまいました。ただ、在宅医療と訪問介護には、対応していません。医院から30*離れたところでも出向きます。大垣市民病院勤務時代に結婚した妻から「見捨てたら患者さんがかわいそう」と言われました。開業3年目の1992年に



穏やかな死に驚く ■「科学の実践で結果を」

だから、君は家で待っていない」と答えました。そこで、かばんと靴を枕元に置いたのだそうです。クリニックに戻り、外来診療をしていると、10時ごろ奥さんから電話がありました。「主人が今旅立ちました」「すぐ往診に行きます」と告げると「目の前の患者さんを診てあげてください。うちへはその後に来てくださればいいですから」と言うのです。男性の死に顔は穏やかで、笑みを浮かべていた。驚きました。それまで病院で多くの患者さんの死を見てきました。死ぬときは苦しむのが当たり前と思っていた。ところが、この男性は穏やかに死ぬことができた。なぜ、病院で苦しんでいた患者が家に帰ると笑顔を取り戻す

のだったのか。考えるうちに、名古屋大学の博士号の授与式の際に医学部長から言われた言葉を思い出しました。医学部長は「どんな道に進んでも、必ず『なぜ』と思つていなければならない。そして科学的にメソッドを考え、実践し、結果を出し、世の中に問いなさい」と語りかけました。病気があるからといって、闘い続ける必要があるのか。もう治らないとわかっているなら、一日でも長く、好きなところで過ごさせてあげることができないのか。病氣と闘う治療ではなく、痛みと苦しみを取り除き、生きる希望がわくケアが必要ではないのか。

在宅ホスピス緩和ケアを実践することはまさに、科学的にメソッドを考え、実践し、結果を出すことだ。そう確信しました。在宅ホスピス緩和ケアを受けることで「患者は安楽死を望まなくなる」という。耐えがたい痛みから安楽死を望むのは理解できます。痛みを緩和するため、強力な催眠鎮静剤を用い患者さんを死ぬまで眠らせる方法があります。「持続的深い鎮静」と呼ばれます。死なせるのではなく眠らせるので安楽死とは異なる解釈するのですが、実質的に安楽死に近いのではないかと思います。しかし、持続的深い鎮静をすると、ご家族とも今生の別れになってしまいます。ほかに苦痛を取り除く方法や生きる希望を見いだせる方法があるのだから、医師、看護師がスキルを磨けばよいと思っています。患者さんや家族はそちらを望むのではないのでしょうか。



笑って旅立った丹羽さんの7回忌。思い出を語り合う。(右端が小笠原さん)

小笠原内科では、在宅医療で「PCA(患者自己調節鎮静法)」を取り入れています。患者さんが自分で痛みや苦しみを取る方法です。「PCAポンプ」という医療機器を使って、モルヒネなどの薬を持続的に皮下注射します。痛みがひどいときはボタンを押すと、モルヒネが追加されます。患者さんは医師や訪問看護師を呼ばなくても、痛みや苦しみを和らげることが出来ます。何度押しても定量以上は入らないので安心です。(大橋正也)